

長野の林業

No.
382

特集

長野県植樹祭
林業普及指導員研修
主伐・再造林特集 佐久地域の取組事例

トピックス

- ・地域振興局情報
- ・カラマツ エリートツリーの普及に向けて

コラム

- ・林業士リレーコラム

県森連だより



フィンランド北カルヤラ県訪問団
訪日記念植樹

フィンランド北カルヤラ県
マルクス・ヒルヴォネン知事

長野県 吉沢 正 林務部長 (右)



林業先進国フィンランドの北カルヤラ県知事を団長とした訪問団が、6月7日から9日まで初めて長野県を訪れ、視察や意見交換などを行いました。長野県と北カルヤラ県は、2019年10月に林業分野での連携・交流を強化する覚書を締結しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大で、来県が見送られてきました。この度、訪問を記念して県庁敷地内で植樹を行いました。

令和4年度
第72回 長野県植樹祭を
県内4会場で開催しました

今年度の長野県植樹祭は、県民の植樹活動への参加機会を広く提供できるような県内4会場で開催しました。

佐久会場の森林教室参加者を除き、新型コロナウイルス感染症拡大防止等を考慮し一般参加の募集は行いませんでしたが、各会場では林業関係者を中心に多くの方々に参加いただき、植樹を行いました。

また、植樹祭の開催にあたっては多くの企業・団体の皆様から御協賛をいただき、苗木の購入代金等を御支援いただいた他、飲食物等の物品を各会場で提供しました。

これからも県民参加による森林づくりを一層進めるために、地域住民、森林づくりを支援する企業・団体の皆様のご参加・ご協力のもと緑豊かな住みよい郷土づくりを推進していきます。

【森林づくり推進課】

【各会場の開催状況】

○ 北アルプス会場（5月21日(土)）



場所：北安曇郡松川村 川西運動公園 西側
植樹：ヤマザクラ10本、カラマツ600本、アカマツ100本
参加人数：80名

○ 長野会場（5月28日(土)）



場所：長野市 茶臼山自然植物園
植樹：オオヤマザクラ25本、ヤマボウシ15本、ヤマモミジ10本、オオモミジ10本、ハウチワカエデ10本
参加人数：120名

○ 上伊那会場（6月1日(水)）



場所：上伊那郡宮田村 宮田高原キャンプ場
植樹：レンゲツツジ1000本
参加人数：100名

○ 佐久会場（6月11日(土)）



場所：北佐久郡立科町 南平公園
植樹：カラマツ（コンテナ苗）7,200本
参加人数：330名

「苗木と植栽の基礎知識」を開催しました

林業普及指導員研修

6月15日水曜日、立科町南平公園において、林業普及指導員研修「苗木と植栽の基礎知識」を開催しました。当日は林業普及指導員（AG）をはじめとする県職員27名が参加。主伐・再造林の取組が各地で進みつつある中、現場での普及指導に不可欠な種苗に関する知識・技術を改めて学ぶ1日となりました。



苗木を観るポイントとは

午前中は座学研修を行い、林業種苗法の定める種苗の生産・配布の決まりごとや県内の種苗生産・需給の状況、森林づくりの成否を左右する種子の重要性等について学びました。



植栽用具の説明（スパード）

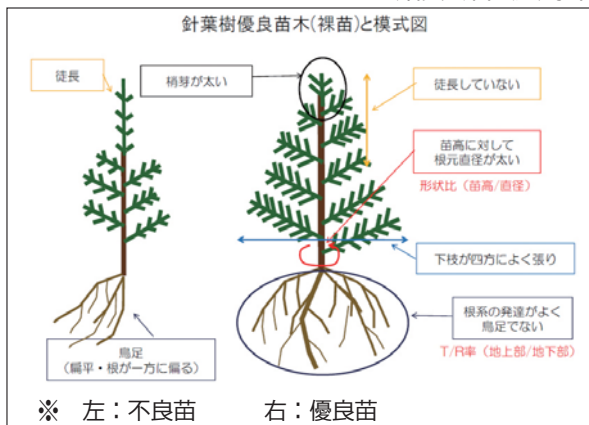
午後は現地に移動し、実際の苗木を観察しながら、裸苗・コンテナ苗それぞれの特徴、優良な苗木の見分け方等について、林業総合センター研究員の解説を聞きました。県内の苗木生産の4割ほどを

占めるコンテナ苗は、根系が発達しやすい、根巻きが起こらない等のメリットがある一方、高密度で育苗するため形状比が高く、枝張りが狭くなりがちなのが課題とのことで、こうした課題の克服に向けた試験研究の状況についても説明がありました。

その後はコンテナ苗を実際に植栽する実習です。専用の道具を使うと効率的に植えられることを実感した一方、唐鍬では真つすぐ植えるのが意外と難しいとの感想も聞かれました。

研修のまとめの講評の中で、印象的なコメントがありました。約40年前のAGは苗木に関する業務に日常的に携わり、知識も持っていたこと。その後の間伐中心の時代の中で、苗木に関する知識や技術は置き去りにされてしまったが、今また必要になり、一方で、間伐に関する技術も今後また必ず必要になる。技術を継承していくことが重要、との話でした。今後林業の長期的な循環を見据えて、必要な研修を企画・開催していきたいと思えます。

研修資料（長野県林業センター育林部）



コンテナ苗の形状

18ヶ月苗 (2成長期)	12ヶ月苗 (1成長期)	
	元肥「少」 24本/10リットル =178本/m ²	元肥「中」 24本/10リットル =178本/m ²
		元肥「中」 40本/10リットル =296本/m ²

- 裸苗に比べ、形状比が高く、枝張りも狭くなりがち
- 高密度で苗木を大きくすると下枝の枯れ上がりが増え、枝張りのしっかりした良苗形状にならない
- 灌水が行き渡らない弊害や、病虫害のリスクも懸念

150ccコンテナ(40孔)

主伐・再造林
特集

県内の人工林の多くが伐採適齢期にあることから、主伐による素材生産と、主伐後の再造林を確実に進め、森林資源の持続的な管理・利用を図る必要があります。本特集では、主伐・再造林に関する取り組み状況などについて、3回シリーズでお届けします。

佐久地域の取組事例

カラマツ林業の再構築を目指して

1 佐久管内のカラマツ資源

佐久管内の森林面積は約11万haで森林率は70%です。この内7割が民有林で、その62%が人工林です。他の地域と比べて人工林率の高い地域となっており、その人工林の89%をカラマツが占め、県内でも東信地域は上田管内と併せ、カラマツの主要な産地として位置付けられています。

また、林業の主要樹種であるカラマツの林齢構成は、11齢級(51年生)以上が87%を占め、成熟度が高くなっています。(図1)

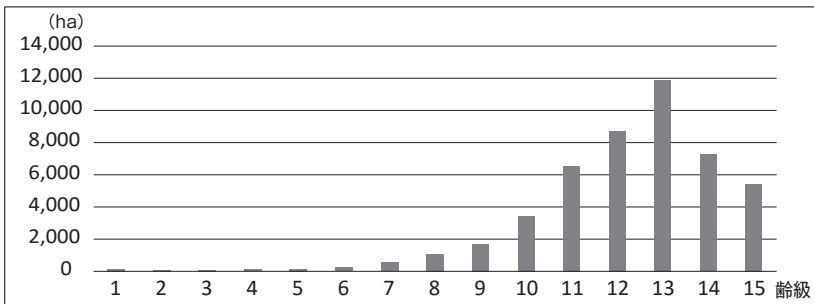
2 カラマツの主伐・再造林

この様な森林資源を有する佐久地域では、素材生産が主伐により行われ始めています。(図2)

令和2年におけるカラマツの素材生産量では、主伐で5万3千m³、間伐で1万2千m³であり、材積で見ると約8割が主伐による素材生産となっています。

佐久地域で主伐が進む主な原因は、①カラマツの林齢が主伐の時期を迎えている、②公有林の分収造林地が契約満期を迎え、清算伐採(主伐)

【図1】佐久地域のカラマツの齢級構成



がなされている、③ウッドショックをはじめ、近年カラマツの木材価格が稀にみる高騰となっているため―等が考えられます。

3 造林未済地の増加

ここで問題となるのが、造林未済地の増加です。主伐面積(転出に係る主伐は除く。天然林66ha含む)が増加し再造林面積も増加しているものの、その伸びに追いつかず、造林未済地も増加しています。(図3)

持続可能な森林・林業を構築するためには、次世代に繋げるカラマツを再造林して資源を残す必要があります。

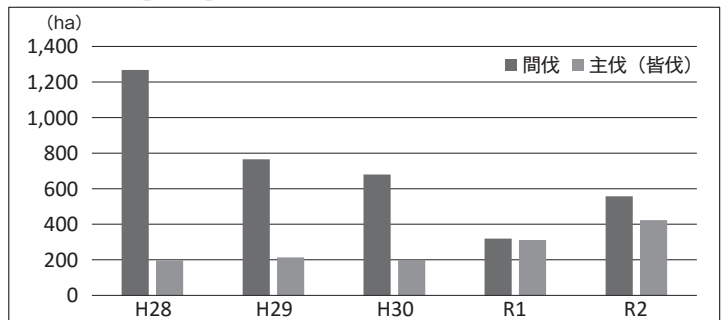
再造林されない理由としては、①林業後継者の問題、(再造林したところで、後継者が引き継いでくれないければ、植林して林業経営を継続することはできません)②再造林経費及びその後の保育経費が、森林所有者の負担となること、(主伐の売上だけでは賄えない、もしくは売上が減額となる恐れがある場合)③持続的利用が可能な森林(特に効率的な施業が可能な森林)のゾーニングが遅れている、更に、④カラマツ苗木の手配に苦労している状況も補足的に理由としてあげられます。

4 更新施業における課題

佐久地域でのカラマツの更新施業を行う上での課題を左記に整理します。

① 森林経営計画作成にかかる、伐採上限値の制約。(大面積を有する団地以外では計画認定が取得しにくい)

【図2】間伐・主伐(皆伐)面積の推移



② 前述した公有林での分収造林地の再造林行うための予算確保

③ 持続的利用が可能な森林のゾーニングについて、地形、地質、水文、植生等による個別施業地の判定

④ ササ地対策、獣害対策等、計画的かつ確実な保育施業の実施

⑤ 生産目標、目標林型の設定

⑥ 伐採・造林の一貫作業システムによる施業の推進（機械地拵えについては、更なる実証や検証が必要）

⑦ 下刈り保育作業にかかる担い手の確保

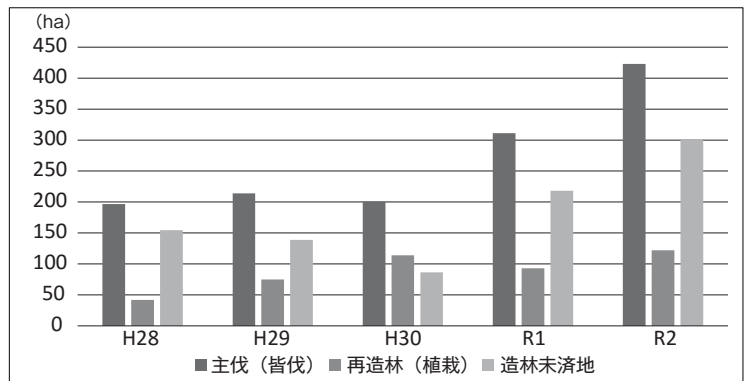
⑧ 次の再造林、ゾーニングの基礎資料となる、主伐に係る属地データ（芯腐れ、樹高、林齢（地位）、形状比等）の蓄積

⑨ 地拵え、下刈り等の機械化（労働負荷の軽減）

5 更新施業における取組

このような課題を抱える中、小海町、南相木村及び北相木村の3町村を管轄する南佐久中部森林組合では、平成29年度から「主伐後の再造林（保育10年保証制度）」として主伐の売上から21万円/haで再造林、下刈り5回、除伐1回を行い、10年生の山まで育てる取り組みを行っています。更に同組合では、令和元年度から森林所有者の負担ゼロで再造林を行う「分収造林」もスタートさせ、持続可能な林業経営に取り組んでいます。佐久地域振興局では、生産目標、目標林型の設定に関し、令和2年度よりカラマツの高密度植栽による小径木の短伐期施業、植栽本数に

【図3】主伐・再造林・造林未済地の推移



よる下刈り施業の省力化等の検証を、長野県庁の林業専門技術員・林業総合センター育林部と連携した「現場適応化実証試験」にて実施しています。また、令和2年度に林務課発行誌である『もりの声』のリーフレット版として「主伐と再造林のすすめ」を発行、普及啓発資料として活用しています。

6 今後の取組について

今年度は普及指導重点取り組み事項として、「特に効率的な施業計画が可能な森林の区域」のゾーニングを市町村と連携し積極的に行い、持続的な林業経営を行うべき地域の拾い出しによる「カラマツ林業の推進」に取り組む事としています。

更に、過去に植林された奥地、急傾斜地のカラマツについてもその利用を検討し、針広混交林化、広葉樹林化を誘導すると共に、切り捨てずに搬出できる作業システムとして架線系技術の習得も目指す予定です。昨年度は南佐久中部森林組合でタワーヤーダを使用した皆伐施業の研修をしましたが、今年度は、多くの林業事業者と共に研修できるよう検討中です。また、佐久地域のカラマツ林業の今後の在り方、進むべき方向性等について、川上から川下までの林業関係者にエンドユーザー等も交えた意見交換会を行いたいと検討しています。



佐久穂町有林の更新状況

【佐久地域振興局林務課】



森林整備を推進するための研修会を開催しています

北アルプス地域振興局林務課では、適切な補助金執行を図るとともに、森林・林業の技術を高めるため、管内の林業事業者や市町村の担当者を対象とした大北地区森林整備実務者研修を平成27年度から毎年開催しており、これまで森林作業道や労働安全等、その時の課題に応じたテーマにより研修を行っています。

令和4年度はこれまでに2回開催しており、第1回では、年度当初でもあることから補助金や森林計画制度の基礎、信州の森林づくり事業の実務について研修を行いました。また、第2回では、主伐期を迎えた森林資源を活用していく一助とするために、最近の森林・林業を取り巻く情勢や木質バイオマスに関する知識についての研修を行った後、本年度稼働を始めた「北アルプス森林組合木質バイオマスセンター」に会場を移して、チップパー機により未利用材をチップ化する工程の見学や材の受け入れ体制等の説明を受けました。

北アルプス地域振興局では、管内の民有林の67%を占める広葉樹について地域の強みとなるビジネスとして成り立つことを目指しています。また、人工林についても県内の他の地域と同様に利用期を迎えており、主伐・再造林等により健全な森林の育成や木材の活用を推進していくことも必要です。

森林整備の推進や森林資源の有効活用により、地域の林業・木材産業の発展や2050ゼロカーボンの実現に向けた取組を進めていくために、今後も林業関係の皆さんの森林・林業に関する知識・技術のレベルアップを図るとともに、地域の林業振興に寄与するための研修会を計画していきます。



研修会の開催状況



チップパー機によりチップが生産される様子を見学

【北アルプス地域振興局林務課】

都立北園高校の皆さんが3年ぶりに伊那市を訪れました 〜都立北園高校の森林探求実習と森林の里親活動〜

令和4年5月10日から12日までの3日間に渡り、東京都立北園高校の生徒320名の皆さんが伊那市を訪れ、森林探求活動と森林整備活動を行いました。

都立北園高校は平成23年度に伊那市西春近財産区と「森林の里親契約」を結び、毎年この時期に伊那市を訪れて森林整備活動を実践してきました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から2年間は活動が行えなかったのですが、3年ぶりに活動が行われることとなり、当日を迎えました。

初日と2日目はまずみヶ丘平地林内の伊那市市民の森で、数名程度の小グループに分かれ、各グループが事前学習で決めたテーマの探究活動を行いました。テーマは森の癒しや森林の機能、草木染や二酸化炭素吸収量など多岐にわたり、それぞれのテーマに沿った調査や確認活動を進めました。予め事前学習で伊那市在住の稲邊謙二郎さんが学校に赴き、生徒の質問に答えるなどして探求の方法を決めてきたので、各自が森林内を散策しながらその方法を実践し成果をまとめます。上手くいくグループや、想像したとおりに進まないグループなど様々でしたが、自然あふれる環境下で和気藹々と学習を進めました。

3日目は西春近財産区の森林へ移動し、除伐作業を行いました。普段あまり使うことのない鋸で林道沿いや獣害防護柵周辺の灌木を伐採しました。作業には地元財産区の方々が指導に付き、地域の方々とお話ししながら作業を進め、約3時間しつかりと汗を流しました。最初は中々手が進みませんでした。徐々に慣れ、終わるころには作業エリア全体が見通せるほどの伐採が出来ました。

作業後は財産区の皆さんが丹精込めて作った昼食のカレーをいただき、その後バスに乗車して帰途に着くとき、地元の方がバスに向かって手を振ると、バスの中から生徒の皆さんが笑顔で手を振り返してくれる光景は清々しく映りました。

都市部の学生が上流域の森林を考え行動するこの活動が、今後も継続されると良いですね。来年も待ってまいります。

【上伊那地域振興局】



森林探求活動をする北園高校生



このコーナーでは、
林業士の活動状況など
をリレー形式でお届け
していきます

平素から県林業士会へ各会員、関係団体の皆様、林業士活動にご理解、ご協力を賜り有難う御座います。林業士会会長の飯森幸彦です。林業士リレーコラムの第1回目ということで、林業士をとりまく状況や、林業士の役割についてお伝えしたいと思います。

林業士をとりまく状況

私が林業士に認定された時代は、林業士という資格は、林業の基本知識を学び、林業の後継者や担い手育成のために必要と言う認識で、支部にも森林組合、行政職員を含む多くの会員がいました。一方で、世間では林業と言う職業の認知度が高くない時代でもありました。

時代は進み、新たな林業士が続々認定される中、林業士研修生、林業士として林業への認識の変化を感じさせられる場面もあります。林業基本知識の研修は従来と変わりませんが、森林・林業の

大切さや、「森林整備は面白い！」ということを普及する活動に力点を置く方が増え、特に今一番問題な林業従事者の減少問題に関心が高い方々が多くなっています。また、支部や仲間内の林業普及活動で、スマホなど「今どき」のアイテムを活用する姿は印象的です。

さらに、最近では、自然環境問題、森林のあり方、防災減災、木材需給のひっ迫等が社会的な問題となり、林業への関心がますます高まっています。長野県は森林県ですから、林業業界も社会問題の解決に向けて多くの貢献ができる産業として変化が必要です。林業士会としても、森林環境教育としての森林整備活動や、地域での森林へのふれあい、チェンソー安全指導・実演など、子供たちに森林・林業の大切さを教える場面が増えてきています。

「長野県の資源は水と木材」と言っても過言でなく、おいしい水、四季の中で育った強度のある木材に恵まれています。木材は、高度な加工による建築への利用から、再生可能エネルギーまで、多くの利用可能性がある資源です。

川上の林業従事者は、山林の管理、切る、使う、育てるといふことをコンセプトに持ち、胸を張ってできる職業です。我々林業士と

しても地域活動中心に、林業PR、森林のあり方、安全指導などの中核となる活動を行うとともに、山林所有者にも山林の手入れを行う事でメリットがあるという認識を持つてもらえるように努める事が大切だと思います。

林業士会の役割

しかし問題も多くあり、特に林業士や林業士会とは何か、世間の認知度の不足を感じます。長野県内でも、林業や山づくりの専門スキルを持った林業士会や林業士の存在をもっとPRしなければならぬと思います。

そのためには、林業士単体での活動だけでなく、支部単位やグループ活動が大切だと思います。その支部を統括するのが県林業士会の役割であり、支部の支援や情報の提供を行っていききたいと思えます。また、林業士のみなさんのスキルアップを支援するため、研修活動等の提案も行います。さらに、行政や林業団体などへの懸け橋となり、各種事業に関する情報の共有を図ってまいります。また様々な分野ごとに、スキルの高い林業士の存在をPRすることも必要です。

林業士会が、県行政とも連携し、現場活動に従事している林業士のみなさんと力を合わせて良い方向

へ進んでいくため、林業士会役員として様々な方法を模索していきたいと考えています。そのためにも、林業士の皆さまからの御意見が大切になります。この先もどうぞ宜しくお願いします。

プロフィール

飯森幸彦 55歳
長野県林業士会会長
諏訪地域で林業事業体を経営
林業経験歴33年
現場作業は、造林事業への従事から始まり、現在は造林事業に加え、素材生産を行なっています。
林業士認定から33年超の間、支部会員として地域林業普及活動を行ってきました。近年、県林業士会役員として活動しております。



林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動する方を増やし、林業の活性化を図るために昭和48年から長野県が認定しているもので、県下各地で「地域林業の中核的人材」として活躍しています。



【中部森林管理局より】

カラマツエリートツリー特定
母樹の円滑な普及に向けて

伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を目指す「新しい林業」において、その中核となるのが、従来の苗木に比べ1・5倍以上の成長を示すエリートツリー特定母樹を活用した造林や下刈り費用の削減、木材として収穫できるまでの期間短縮による低コスト施業体系の構築です。

今年3月、長野県の林業の更なる発展を担う新たな品種であるカラマツエリートツリーの普及に向けて、長野県、伊那市及び(国研)森林総合研究所林木育種センターと当局の四者で「カラマツエリートツリー特定母樹の円滑な普及に向けた覚書」を締結しました。また、そのキックオフイベントとして、4月12日、伊那市の「ますみヶ丘市民の森」において、伊那市主催による「カラマツエリートツリー植樹セレモニー」が開催されました。

当日は、林木育種センターに提供いただいた苗木90本を関係者が植栽して日本初となる「カラマツエリートツリー特定母樹の展示林」が誕生し、今後、ますみヶ丘市民の森を訪れる方々にも、その成長を見ていただけるようになり



植樹セレモニーの様子

来年度の春には、当局でも浅間山の国有林に特定母樹の展示林を造成する予定であり、これら二箇所の展示林を核とした技術実証や現地検討会等を通して、特定母樹の早期導入に向けた普及活動に、4者で連携して取り組んでまいります。

中部の森林
林業従事者 写真コンテスト

現在、中部森林管理局では、長野県、富山県、岐阜県、愛知県の国有林及び民有林で活躍している林業従事者の働く姿を対象とした写真コンテストを開催しています。

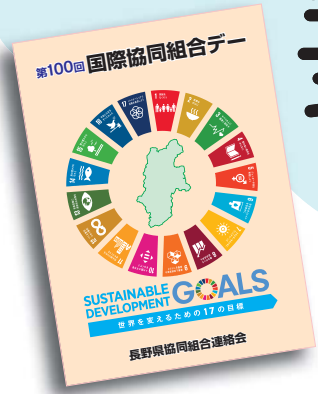
林業・木材産業は、外材の輸入減少等による状況下において、国産材の需要が拡大するとともに、生産側である川上への期待も高まっています。季節や天候で日々変化する自然を相手にした川上の、普段は人目に触れない現場で頑張っている林業従事者の姿を広く知っていただき、山への関心と林業への理解を深めていただくことを目的としたコンテストです。

応募できるのは、写真も安全第一に撮影できる林業従事者の方々に限定しています。優秀作品には副賞もありますので、QRコードからお手軽に応募してください。川上の林業の現場、みんなで盛り上げて行きましょう！

PR用のポスター(左)とチラシ(右)

第100回 国際協同組合デー 共通スローガン

協同組合はよりよい社会を 築きます



◀長野県協同組合連絡会で
作成した国際協同組合デー
パンフレット
右のQRコードから
ご覧いただけます。



7月2日(土)は、国際協同組合デーです。
国際協同組合デーは、協同組合への認知を高め、国際連帯、経済的効率性、平等、世界平和といった協同組合運動の理念を広めることを目的に、ICA(国際協同組合同盟)の呼びかけのもと世界の協同組合が毎年取り組んでいるものです。毎年7月第1土曜日と定められており、1995年からは国連の国際デーの一つになっています。
第100回を迎える今年、ICA

は共通スローガンを「協同組合はよりよい世界を築きます」としました。
これは2012年の国際協同組合年から10年を迎えることにちなみ、当時と呼応するスローガンとなっています。
長期化する新型コロナウイルスの影響、頻発する自然災害に加え、ロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の緊迫化は、燃料の高騰や食料の安定供給の危機をもたらし、私たちの暮らしを揺るがすものとなっています。経済が停滞し、世界の平和と安全が脅かされている今こそ、人々が支え合い助け合う協同の精神が必要とされています。
また、2015年に国連で採択された「SDGs(持続的な開発目標)」では、誰一人取り残すことなく、持続可能で多様性と包摂性に富んだ社会の実現のため17の目標が掲げられています。目標の達成に対し、安定的な食料や資源の供給を行う農林水産業や、貧困の解消、健康的な生活の確保と福祉の推進、食品ロスの削減やリサイクル、ジェンダー平等の実現、ディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の創出など協同組合が果たす役割に大きな期待が寄せられています。
今年の10月には、新たに労働者協同組合法が施行され、協同組合運動は更に広がりを見せております。
私たち森林組合系統は、かつて一村

一組合の強制加入の時代を経ており、協同組織としての歴史はまだ浅いところですが、森林所有者の協同組合として、森林所有者の経済的社会的地位の向上と森林の健全な育成や保全、森林生産力の向上を図り、協同組合間連携を通じて、よりよい社会づくりに向けて協同組合の理解を深め、協同組合運動の拡大に寄与していきます。

協同組合フェスティバル 2022開催のお知らせ

長野県内の協同組合間連携の一環として、組合員同士の交流や県民の皆様が協同組合の活動を知っていたくイベント「長野県協同組合フェスティバル」が3年ぶりに開催されます。

開催日は10月2日(日)の10時30分～15時30分、長野市の「ながの表参道セントラルスクエア」を会場に、入場時の検温・消毒、マスク着用など新型コロナウイルス感染拡大対策を徹底する中で行います。

県内の協同組合や関係団体が商品を持ち寄り、農産物などの直売を行うほか、活動紹介や体験コーナーなど約30ブースが出店予定です。

共催企画として前日に記念講演も予定しています。入場無料。各種お問い合わせは実行委員会事務局 長野県生活協同組合連合会まで。

電話 026・261・1380



**安全作業と育成指導を学ぶ
令和4年度職長・安全衛生責任者教育**



▲チェーンソー伐倒の作業計画作成に取り組み参加者

2022年6月9日～6月10日の2日間、安曇野市三郷のもくりゆう館で森林組合職員を対象にした「職長・安全衛生責任者教育」が開催されました。この研修会は、現場における作業員の安全及び指導・監督能力の向上を目的として開催され、28名が受講しました。

講師にRSTトレーナーの横山繁樹氏を迎え、職長の役割、指導及び教育の方法から、労働災害の原因やその環境を分析するリスクアセスメントの他、作業手順の定め方、災害発生時における措置、災害事例研究など、2日間で計14時間にわたって行われました。講義とグループワークで進められ、

それぞれの現場での経験を基に、普段交流する機会が少ない他の森林組合職員と活発な議論が交わされていました。また今回は、技能職員だけでなく一般職員の参加も多く、様々な視点からの意見が出されました。

労働災害の撲滅と技能者の育成には、現場で指揮を執る職長の役割がますます重要になっていきます。

受講者には後日、労働安全衛生法で定められた「職長・安全衛生責任者教育カリキュラム」に基づく修了証が交付されます。



**よりよい組合経営のために
令和4年度
森林組合会計研修会**



2022年6月22日～6月23日の2日間、安曇野市三郷のもくりゆう館で「森林組合会計研修会」が開催されました。これまで初任者研修会と併せて開催していましたが、職務経験を積んだ方のスキルアップや学び直しの要望を受け、別日程で会計に特化する内容で開催しました。当日は感染防止対策を講じる中、33名が受講しました。

「会計・簿記の基礎」で企業会計原則などをおさらいした後、指導部門、販売部門、森林整備部門と各事業での受託や請負、買取販売といった事業形態に合わせた取引例題の仕訳を演習しました。

また、受託の森林整備と受託販売の仕訳を題材に作成した委託者への精算書を例に、各取引がどのように処理されるのか解説しました。2日目の午後からは決算処理を演習し、一般管理費の仕訳方や固定資産の減価償却について理解を深めました。

参加者からは森林整備事業や決算処理に特化した解説や、組合間の意見交換を求める声もあり、今後、さらなる内容の充実を検討していきます。長野県森連では引き続き公正な会計処理を徹底し、森林組合の運営に資するようサポートしていきます。



▲会計ソフトが発達した現代だからこそ、基本を押さえておく必要がある

Jforest
コーハイコーナー

林業に役立つアイテムが大集合！
第29回森林組合購買チラシ



◀チラシは左のQRコードからご覧いただけます

2022年版の「森林組合購買チラシ」が完成しました。組合員の皆様にご好評いただき今年で29回目になるチラシは、近隣の中部・関東の11県森連合同で毎年作成しております。

林業で使うチェンソー防護パンツや振動軽減手袋、山菜狩りやきのこ狩りなど山での作業に便利なスパイク地下足袋やナタ、ノコギリなどの定番商品はもちろんのこと、夏の野外作業やレジャーで重宝する人気の「パワー森林香」など防虫商品のほか、オオカミの尿の成分でシカ、サル、イノシシ、クマなどの獣害忌避効果を発揮する「ウルフピー」も好評です。

裏面の「しんくみバザール」は長野県オリジナルの掲載内容となっております。表面に載せきれなかったこだわり商品が多数掲載されています。

特に、長野県内の森林組合が取り扱っている商品紹介では、No.380号で掲載した根羽村森林組合の木糸タオル「KINOF」が掲載されたほか、松本広域森林組合では、朝日村特産のカラマツ材で村内の作家の方たちが製作した、生活の一コマに使える工夫を凝らした製品を取り揃えており、昨年のウッドデザイン賞を受賞した「信州朝日カラマツ ウッドバスケット（右下写真）」が新規掲載されています。また、生地の丈夫さから林業で愛用されてきた「帆布」をおしゃれに仕立てたカバンの「ボルサ」シリーズもイチオシです。



▲脱プラスチックやSDGs等、環境問題に貢献するため家具職人が発案した、本当の意味での本物のエコバスケット
美しいカラマツの木目を長く楽しめるのが魅力



緑の雇用

表裏合わせて約160点ほどの魅力的なアイテムが掲載された「森林組合購買チラシ」は県内各地の森林組合で配布しているほか、長野県森連HPでも閲覧できます。

購買商品のお求めはお近くの森林組合へお問い合わせください。

ぜひこの機会に、森林組合の購買商品をチェックしてみてください！

▲みどりの女神の成田愛純さんが起用されたポスター



▲OJT研修（安全指導）の様子（和合森林組合）

今年も事業が開始しており、(二財)長野県林業労働財団による集合研修のほか、森林組合をはじめ各林業経営体でのOJT研修が進められています。

研修生の皆さんには、安全作業を徹底する中で技能を磨き、将来を担う林業のプロフェッショナルとなることが期待されています。

新規就業者向け研修（TR・FW）を終了した従事者はおよそ2万人近く（令和元年まで長野県資料による）になり、林業従事者の約半数が「緑の雇用」出身となっています。

未経験者の方でも林業に就き、必要な技術を学んでもらうため、林業経営体に採用された人に対し、講習や研修を行うことでキャリアアップを支援する国の制度である「緑の雇用」事業は、平成15年に開始し、今年度で19年目を迎えます。

令和4年度
「緑の雇用」がスタート！



暑中お見舞い申し上げます



長野県林業経営者協会
会長 林和弘

一般社団法人
長野県林業普及協会
会長 林和弘

長野県木材協同組合連合会
理事長 宮佐都
副理事長 原崎正良
副理事長 新島透
副理事長 柴崎幸弘
専務理事 松本昌弘
事務局長 松本昌弘

長野県森林組合連合会
代表理事 藤原忠彦
副会長 林幸弘
代表理事 高井幸弘
常務理事 櫻井肇

一般社団法人
長野県林業センター
理事長 藤原忠彦
副理事長 宮崎正毅
副理事長 水本豪
常務理事 宮宣敏

長野県山林種苗協同組合
理事長 富澤修一
組合員一同

信州木材認証
製品センター
理事長 宮崎正毅
副理事長 高木吉明
副理事長 柴田幸生
専務理事 松本昌弘
事務局長 松本昌弘

林業・木材製造業労働災害防止協会
長野県支部
支部長 宮崎正毅
副支部長 高田幸彦
幹事 阿部勝彦
事務局長 阿部勝彦

長野県林業団体協議会
会長 高田幸彦
副会長 藤原忠彦
副会長 宮崎正毅
副会長 水本豪

一般財団法人
長野県林業労働財団
長野県林業労働力確保支援センター
理事長 山口勝也
役員一同

長野県森林組合長会
会長 林和弘

長野県造林協会
会長 藤原忠彦

長野県治山林道協会
会長 羽田健一郎
役員一同

長野県林業薬剤防除協会
会長 牧司

森林・林業の総合アドバイザー
一般社団法人
長野県林業コンサルタント協会
理事長 羽田健一郎

長野県生産森林組合等団体有林連絡協議会
会長 鮎澤光昭

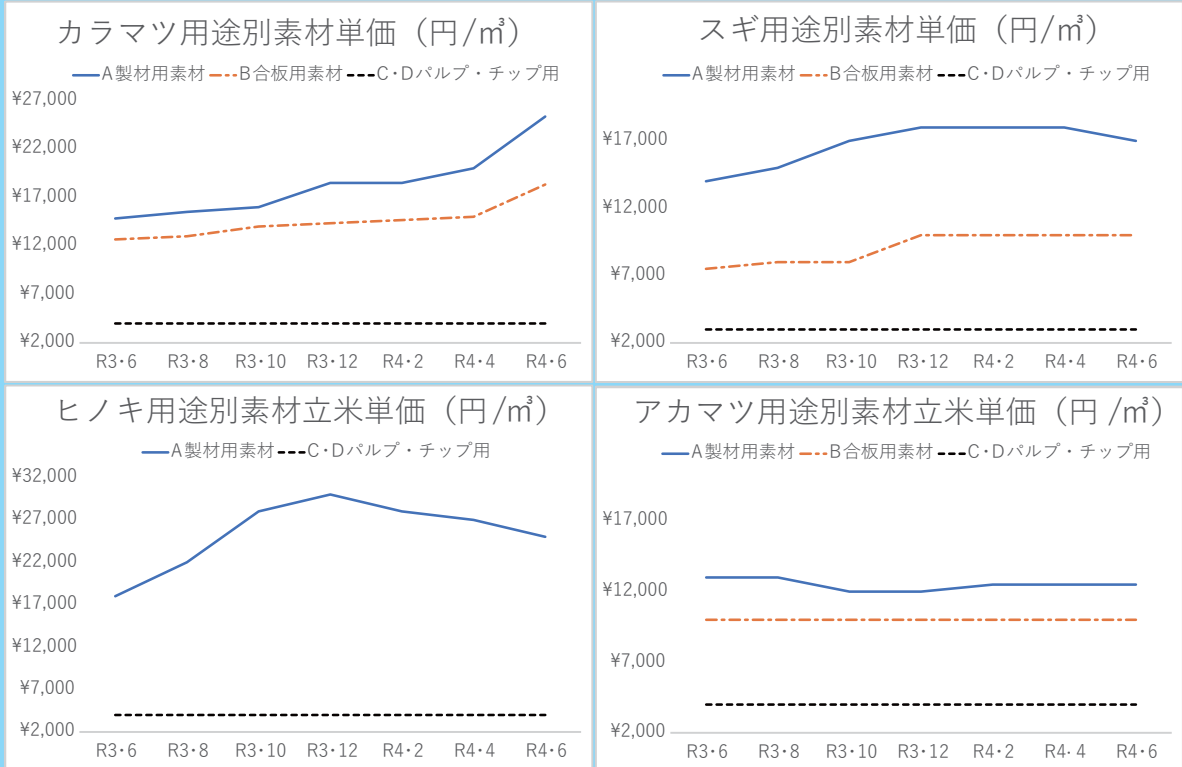
長野県林業士会
会長 飯森幸彦

長野県林業研究グループ連絡協議会
会長 田中忠

長野県特用林産振興会
会長 林和弘

長野県水源林造林協議会
会長 白鳥孝

JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成。

新型コロナウイルスや国際情勢輸入材の調達が困難な状況等から価格、需要ともに上昇傾向にあったスギ、カラマツの製材・合板向けの丸太ですが、ここにきて一服感がみられます。ヒノキの柱・土台取りは、需要低調なことから値を下げました。アカマツは依然合板向けや土木用材に引き合いが続いていますが、アカマツ枯損の原因となるマツノザイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリの活動時期を迎えますので、県等が定める松くい虫被害対策としてのアカマツ林施業指針に則した出材をお願いします。

広葉樹は良材に応札活発ですが、材が傷みやすい時期ですので、これから伐採または出材を計画されている方は各木材センターにご相談下さい。

市況を随時取り入れ、需要に合わせた仕分け・はい積みをしていきますので、引き続き集荷のご協力よろしくお願いいたします。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得し、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いいたします。

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪



長野県森連